

◇ 為桜学園「光プロジェクト」 （進路探究） 「令和6年度 先輩講話」

日時 ○ 令和6年 5月 9日（木） 第6校時（14時40分～15時35分）

参加者 ○ 高校1～3年生、および附属中学校1～3年生

場所 ○ 本校 第一体育館

<講師> 秋山 政明 様〔一般社団法人Burano 理事〕 本校第102回卒業生

👉 各界で活躍する卒業生の方をお迎えして実施している、毎年恒例の行事「先輩講話」ですが、今年度の講師を務めてくださったのは、秋山 政明 さん。「重度障がい児を預かる多機能デイサービス」と「母親の仕事支援」を掛け合わせた日本唯一の施設として、「Burano（ブラーノ）」を立ち上げ、運営されている方です。

本校を卒業され、アメリカ合衆国の州立サウスアラバマ大学ビジネス学部に進まれた秋山さんは、これまでに（株）リクルート、古河口市議会議員など様々な経歴を重ねてこられました。現在は古河市で重度の障害を持つ子どもたち、母親・父親たちと向き合いながら、日々新しいことに対応し挑戦されている秋山さんの言葉は、冒頭から生徒たちの心をわしづかみにしていました。



（左側写真：茨城県 HP より転載）

「生命を救うこと」を巡る考察、救った後の問題に関するまなざし、「居場所」をつくることの大切さ、そしてそもそも「幸せ」とは何だろうか …？ 限られた時間ながら、自分自身の感情や常識を揺さぶられ、問い直すことを促される、そんな意義深い時間となりました。

生徒たちへのインパクトが絶大だった証拠に、講話終了後も控室には10名以上の質問者が列をなしました（中には落涙する生徒も…）。質疑応答だけで1時間を超過してしまいましたが、丁寧かつ熱心にお答えいただいた秋山さんには、本当に感謝しきりです。

先輩・後輩含めて本校職員にも何名かの知己をお持ちだそうですので、今後またご来校いただけることを楽しみにしています。ありがとうございました。

<生徒の感想から>

- ・ 自分で計画を立てつつ、本来の目的は見失わないという秋山さんの人生に感銘を受けました。また、今の社会に必要なものは何かを考えるきっかけにもなりました。
- ・ 自分の身の回りには今はないことだけど、社会ではたくさんの手助けが必要な人が居るってことがわかったし、その人達を助けている、社会に役立つ仕事をしている講師の人がとてもかっこよく、自分も、目的のための手段はたくさんあるというような話を聞いて、社会に少しでも貢献できる人になりたいなというふうに思った。とても心に残るいい講話でした。
- ・ 「職業」が目的なのではなく、その先に「したいこと」が目的であるということにとっても感銘を受けた。なりたい職業につけたとしても、そこがゴールではなくスタートだとおもい、目の前のことに一生懸命がんばりたいと思った。貴重なこの体験をこれからの自分に活かしたい。
- ・ 自分の子供が生まれたことを転機に、生活していくために自分で仕事を「探す」のではなく仕事を「作る」という発想がすごいなと思った。それは、RECRUIT と古河市市議会議員の経験があったからこそなのかなと思った。将来の仕事は、それまでの経験も生きてくると感じた。
- ・ 救うことも大切だけど、その先にある問題に対して真剣に考えているところが今の自分には足りないところであり、すごく心が動かされました。今日の講話をもとにしてこれからの自分の将来やりたいこと、目的を探せるように頑張ります。ありがとうございました。
- ・ 日本に障害をもった子が生まれてきて救われたとしても、その後の居場所がないことに今日の講話を聞き気づきました。 そんなちょっとした気付きからも行動をおこせるような人になりたいなと思いました。
- ・ 私のお友達にも重度の障害を持っている子がいるので、より深く考えることができました。その子が楽しめるようにお話ししたりするけれど、特別な扱いをするのではなく、一人の大切なお友達として接しようと思います。
- ・ 命を救った先のストーリーを考えたことがなかったので、それらを考えるいい機会になりました。
- ・ 代表の生徒さんも言っていたとおり日本の医療技術の凄さだけでなく、それ故の課題の解決策をおっしゃっていたので、物事を点ではなく線で見えてすごいと思った。 また、忘れがちだけど目標と手段の区別を学んだ。
- ・ 今日は貴重なお時間をいただき、ありがとうございました。私の友達にも医療ケアが必要な子がいます。そういった子達について、その友達に出会うまで、無関心というより、全く知りませんでした。「知らないことが一番怖い」 小学三年生からずっと心にある、私の座右の銘です。 私は、先生のように、新しい世界を切り開いている方を見て、「あんなふうになりたい」と思ってきました。先生の仰る通り、自分の視野を広げ、自分の感情に素直に、行動力を持ってこれからの人生を歩んでいきたいと思えます。改めて、本日は貴重な講話をありがとうございました。先生のこれからの幸多からんことを祈っています。

